

10. 三大栄養素摂取量と社会経済的要因 NIPPON DATA2010

研究協力者 櫻井 勝 (金沢医科大学医学部衛生学 准教授)
研究分担者 中川 秀昭 (金沢医科大学総合医学研究所 嘱託教授)
研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者 由田 克士 (大阪市立大学大学院生活科学研究科食・健康科学講座公衆栄養学 教授)
研究分担者 中村 保幸 (龍谷大学農学部食品栄養学科 教授)
研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学健康栄養学科 教授)
研究分担者 西 信雄 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長)
研究分担者 宮本 恵宏 (国立循環器病研究センター予防健診部/予防医学・疫学情報部 部長)
研究分担者 有馬 久富 (福岡大学医学部衛生・公衆衛生学 教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
研究分担者 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)
研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)

NIPPON DATA2010 研究グループ

【目的】日本を代表する集団で、世帯収入などの社会経済的要因と三大栄養素摂取量の関連を検討した。

【対象と方法】2010年国民健康栄養調査においてNIPPON DATA2010 ベースライン調査に参加し、同年の国民生活基礎調査と突合可能であった2,637名(男1,145, 女1,492)に対して、三大栄養素摂取量と社会経済的要因の関連を検討した。また、日本人の食事摂取基準を超える三大栄養素バランスの悪い食事(炭水化物65%エネルギー以上, かつ脂質20%未満)を摂るリスクと社会経済的要因の関連を検討した。

【結果】世帯年収は脂質摂取量と正(男 $p=0.001$, 女 $p<0.001$), 炭水化物摂取量と負(男 $p=0.003$, 女 $p<0.001$)の関連を認めた。等価世帯支出と三大栄養素摂取量の関連も同様であった。三大栄養素バランスの悪い食事を摂るリスクは、年齢(高齢者)と最も強く関連し、次いで低世帯収入, 低等価世帯支出, 教育歴(高卒以下), 職業(農業)と、各々独立して関連を認めた。

【結語】食事摂取基準を超えた三大栄養素バランスの悪い食事を摂ることは、高齢や社会経済的要因と関連を認めた。社会経済的要因は三大栄養素摂取量のバランス悪化を介して健康状態に影響を与えている可能性が示唆された。

J Epidemiol. 2018;28(Suppl 2):S17-S22